

ゲリラ豪雨対策が順調に進められています

時間75ミリに対応する千川増強幹線工事

東京都下水道局は、南大塚から文京区にかけて、時間75ミリの降雨に対応する千川増強幹線工事を行なっています。この度、米倉春奈都議から工事の進捗について説明がありましたのでお知らせします。

すでに、この地域の地下には雨水を収容する千川幹線、第二千川幹線という2本の貯留管が整備されています。しかし、これだけではゲリラ豪雨に対応できなかつたため、2017年から千川増強幹線という3本目の貯留管を設置する工事が始まっています。

工事は上池袋東公園の一部を閉鎖して起点にするという、地元住民の理解が得られて開始しました。昨年夏からは地下を掘り進めるシールド掘削工事が始まり、現在は大塚駅付近までシールドマシンが掘り進んでいます。



貯留管のイメージ（直径3.75m）



上池袋東公園にある工事起点の建物（上池袋1-30-20）

▼二度と被害が起こらないために

工事の発端は、2013年8月に発生した、豊島区と文京区を襲った凄まじいゲリラ豪雨被害です。大塚三業通り周辺だけで130件以上が床上・床下浸水の被害にみまわれました。

同年、東京都はこの地域を75ミリ対策地区に指定しました。私は米倉都議と被害にあわれた住民の方々と共に、東京都に対し、早期に工事をすすめるよう申し入れました。

来年の完成に向けて、ゲリラ豪雨対策は順調に進んでいます。工事が完了すると、上池袋東公園も元に戻ります。なお工事現場の見学が可能なので、私に連絡をいただければご案内します。

上池袋5町会の避難所が遠くの池袋本町に？

2022年7月まで池袋第一小学校の改築に伴い仮校舎へ移転

池袋第一小学校（上池袋4-28-1）が改築するため、廃校となっている旧文成小学校（池袋本町4-36-1）へ、この4月から仮校舎として移転しました。新校舎の開校は2022年8月を予定しています。

区立小中学校は、避難所（救援センター）に指定されています。避難所は、災害により住宅が住めない状態となった場合、一定の期間、避難生活する場所であり、情報連絡や給水・給食、医療救護など支援の拠点ともなり、地域住民にとっては、近くになればなりません。

◆代わりの避難所は必要不可欠

私は工事期間中の代替施設が必要と考え、事前に区に確認しました。回答は「過去の学校改築では避難所の代替施設を設置したことはない」というものでした。災害はいつ起こるかわからず、区は何時でも必要な対策をとる責任があります。そのような時に上池袋2～4町目の5つの町会の住民が、遠くの池袋本町の避難所を利用しなければならないなどのもつての外です。



小学校移転後も残る掲示板

◆不足している豊島区の避難所

避難所の収容数の不足は深刻です。

東池袋2丁目にあった時習小学校は廃校され、土地は帝京平成大学に売却されました。同時に地域の避難所も無くなってしまいました。私は避難所の増設問題を幾度も議会で取り上げてきました。これからも大幅な増設をめざして、みなさんと力を合わせます。

くらし何でも相談

お困りごとは、一人だけで、あるいは家族だけで悩まずに、何でもお気軽にご相談ください。

各分野の専門家、労働組合、弁護士等と連携して問題解決に向けてサポートいたします。

ご連絡お待ちしております。